

「産産学学」新たな業界コラボレーション

Academic-Industrial Collaboration Project 2018

12th FORM PRESENTATION



素材テーマ “アーカイブ・ミックス”
ファッションテーマ “温 故 知 新”

主 催：繊維ファッション産学協議会

特別協賛：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構

協 力：公益財団法人北播磨地場産業開発機構

兵庫県立工業技術センター 繊維工業技術支援センター

【事業概要】

次世代の人材育成を目的とし 2007 年にスタートした産学コラボレーション「FORM PRESENTATION」。今回は、日本の先染め産地「播州」を取り上げ、過去に製造された貴重な素材から現在の素材まで、バリエーション豊かな素材を活用する「アーカイブ・ミックス」を素材テーマとし、播州産地の協力を得て、歴史を学ぶと同時に新しい価値創造を追求しました。学生たちの様々なアイデアで、昔ながらの良きものを大切にする心と今の自分がジャストフィットするファッションスタイルを交差させて、時代ミックスを楽しむハイパーファッションを創造しました。

【12th FORM PRESENTATION】 ～作品が完成するまで～

6月	「播州織大学」開催 ポートフォリオで応募
7月	審査会で8グループを選出 産地研修会
8月～10月	作品制作
11月	作品の展示発表
12月	成果報告会

■「播州織大学」～開催～

素材知識を習得するための「播州織大学」を、大阪&東京で開催しました。ファッションを学ぶ専門学校生&大学の学生や、アパレル・小売りのMDやデザイナー、生産管理者など合わせて 370 名が参加し、播州織の基礎知識や素材の魅力を講義と映像で学びました。

大阪：6月6日（水）13:30～16:45 会場：大織健保会館

東京：6月15日（金）13:30～16:45 会場：TEPIA ホール

（参加費 500 円）

テーマ： 「アーカイブ・ミックス」

[講座] 「播州織の基礎知識」

《講師》兵庫県立工業技術センター 繊維工業技術支援センター 前所長
公益財団法人北播磨地場産業開発機構 播州織相談員
古谷 稔 氏

参加者：大阪 101名

《学校・学生》 81名

上田安子服飾専門学校、大阪モード学園、神戸ファッション専門学校、
香蘭ファッション専門学校、中部ファッション専門学校、名古屋モード学園

《一般》 20名

IDC(株)、旭化成アドバンス(株)、(株)犬印本舗、スタイレム(株)、(株)ナイガイシャツ、
名古屋紡績(株)、(株)ワコール、コンテックス(株) 他



(大阪)



(東京)

参加者：東京 269名

《学校・学生》 223名

エスモードジャパン、織田ファッション専門学校、杉野服飾大学、東京モード学園、
ドレスメーカー学院、武蔵野ファッションカレッジ、文化服装学院、横浜fカレッジ

《一般》 46名

旭化成(株)、(株)イッセイミヤケ、(株)オギタヘムト、(株)コッカ、ササキセルム(株)、(株)サン
マリノ、(株)SHIPS、(株)大松、豊島(株)、日鉄住金物産(株)、富士ベッド工業(株)、フットマー
ク(株)、BAYCREWS、丸紅ファッションリンク(株) 他

講座では、公益財団法人北播磨地場産業開発機構の播州織相談員、古谷 稔 氏が、原料の特長から仕上げ加工までのプロセスや、産地の特性、産地独自の商品の研究など、

播州織のさまざまな基礎知識を習得するための実学を解説しました。
また、画像と現物の生地に触れながら、今回のテーマ素材についての特徴が語られました。



「12th FORM PRESENTATION」のための必修講義を受講した学生はこの後、このテーマ素材を活かした新規性のあるフォルムのアイデアを具現化するポートフォリオの提案に取り組みました。

■ 12th FORM PRESENTATION” の応募要項

□マテリアル・テーマ：「アーカイブ・ミックス」

播州織は、西脇市・多可町を中心とする《北播磨》で、綿先染め織物を製造する地場産業として成長してきました。現在は、綿素材のみならず、ウール・シルク・化合織等との交織も多く、プレーンな平織から、凹凸・表面感のあるドビーやジャカード等を展開し、世界中のファッションを支えています。先染め織物という名の通り、播州織は先に糸を染め、染め上がった糸で柄を織ります。豊かな色彩、深い色合い、自然な風合い、素晴らしい肌ざわりを持っており、ファッションからライフスタイルまで、現代の幅広いニーズを満たすテキスタイルとして高い関心を集めています。

また、多品種・短サイクルのスピーディーな生産ニーズに最新の技術革新で応えるとともに、産元・染色・準備・織布・加工が主体性を持った一体化した商品企画・販売事業の展開を進めています。

播州織の過去に製造された貴重な素材から現在の素材までバリエーション豊かな素材。高度な発想とテクニック、バランス感覚で、単一な素材のみの構成ではなくパッチワークや異素材ミックス、同柄違色等、限られた素材をどのようにフォルムにしていけるかを再考する機会として「アーカイブ・ミックス」を素材テーマとしました。

□ファッションテーマ 「温故知新」

古き良き日本。時代は巡りファッションのみならず、ライフスタイル全般においても過去の良きモノは見直され、今の社会に順応するようなスタイルへと昇華させることがトレンドの一つにもなっている。自分が培った環境、思考、美意識、自分史の中でも、都度の時間を切り取れば、その価値観は無限に広がっていく。パズルのように存在する価値観を自由気ままに組み合わせ、感情の赴くままに描く今昔物語。美しい昔に今の自分が出会い、どの時代を切り抜き、未来の自分を形成していくか……。昔ながらの良きモノを大切に作る心と今の自分がジャストフィットするファッションスタイルを交差させて、時代ミックスを楽しむハイパーファッションを創造しましょう。

<デザインにおけるスタイルの時代背景>

1) 過去への敬意～Classical homage～

歴史的なファッションスタイルを今の素材で復元する時代検証

*バロックスタイルやヒッピー、ブリティッシュスタイル（モッズ、トラッド）等

2) 今の決断～A piece of emotion～

今の社会・経済を考察し、今まさに着用したいオンタイムな表現

*ストリートカジュアル、スポーツミックス、ノームコア、スーパーミックス等

3) 未来へのエール～Go for it～

過去・現在を知った上で、“その先にあるもの”を求める探究心

*ポストエレガント、進化系ミニマル、キレイ目フォーマル、デフォルメ・ファッション

■ 審査会で8グループを選出～ 審査会報告と講評

今年で12回目を数える「FORM PRESENTATION」(主催:繊維ファッション産学協議会)の選考会が7月3日に、東京・渋谷のJFW(日本ファッション・ウィーク推進機構)で行われました。6月に東京と大阪で開講した「播州織大学」を受講し、ポートフォリオで応募した中から8グループが選ばれました。

今回は、素材テーマが「アーカイブ・ミックス」、ファッションテーマが「温故知新」で、全国のファッション専門学校12校から49グループの応募がありました。選考会では①テーマとデザインの整合性、②デザインと素材の適合性、③アイデア表現の獨創性、④作品の完成度など4つの項目にわたって専門家による審査が行われました。

提出されたポートフォリオは、素材とファッションの各テーマに沿い、学生らしい斬新なアイデアが多数寄せられました。ただ、審査結果をみると上位と下位のグループには大差がつかしました。その要因は、コンセプトや制作技法、イラストを含めた表現力などによる差異で、なかでも素材の持ち味を生かして、どのように獨創的な作品に仕上げるかのプレゼンテーション力が審査点にあらわれました。

審査を通過した8グループは7月24日に行われた、播州産地の研修会に参加し、そこで作品製作で使用する素材を、専門家のアドバイスを受けて発注。それぞれの作品は、11月21～22日に東京国際フォーラムで開催された「JFW-JC2019」で展示・発表されました。

□ 審査内容

(以下4項目の評価の合計点で上位を選出)

- ・ テキスタイルと作品の適合性
- ・ 作品表現の獨創性
- ・ 作品のリピータ性
- ・ 作品の完成度



12th FORMPRESENTATION 審査通過者

学校名 / School name	グループ名 / Group name	テーマ名
上田安子服飾専門学校／UEDA COLLEGE OF FASHION	チン・トレンバー／chin tremble	Neo lvy
エスモードジャパン東京校／ ESMOD JAPON TOKYO	オリフク／orifuku	Origata
神戸ファッション専門学校／ KOBE FASHION INSTITUTE	纏／MATOi	寂、線、空間
香蘭ファッションデザイン専門学 校／KORAN COLLEGE OF FASHION DESIGN	祭福／HAREFUKU	祭福-ハレフク
中部ファッション専門学校／ CHUBU FASHION COLLEGE	チェックモンスター／check monster	ニューエイティーズ
東京モード学園／TOKYO MODE GAKUEN	エターナル ライフ／Eternal Life	～時間が現時代に与える美し さ～
ドレスメーカー学院／ DRESSMAKER GAKUIN	おむすび／Omusubi	ブリティッシュスタイル×和
文化服装学院／BUNKA FASHION COLLEGE	アスク／ASK	生成階段-Generation Phase-

※50音順

※今回の審査では特に“テーマの理解”並びに“素材とデザインの整合性”が重視されました。

■ 産地研修会 「播州織」の生産現場を視察

ポートフォリオによる審査を通過した8グループの学生が7月24日、兵庫県西脇市を訪れ、西脇産地を視察しました。この産地研修会は、学生が産地の加工場を訪問し、生産の現場に触れる体験をすることで、素材に関する見識を高めることが目的です。また現場で応募デザインを具現化するためのアドバイスを受けるなど、実物製作に向けて実学体験をするカリキュラムとなっています。

■スケジュール：

時間	内容/場所
10:00	JR 山陽新幹線 新神戸駅 改札集合
	移動（70～80分）
11:20～12:00	西脇市郷土資料館 スワイベル織物見本展～幻の織物スワイベル400点
12:00～13:00	昼食休憩/ 梅吉亭（西脇市西脇394-2 TEL0795-23-9415） 梅吉亭のランチを、隣接する国登録有形文化財、旧来住家住宅（西脇市西脇394-1 TEL0795-22-5549）にていただきました。
13:10～14:45	東播染工株式会社 ・工場見学
15:00～16:50	兵庫県立工業技術センター繊維工業技術支援センター ・基礎知識ガイダンス ・生地制作の現場、試作機見学、ショールーム ・質疑応答
	グループ別ガイダンス ・素材発注～制作指導
17:00～18:30	新神戸駅へ移動～解散

■訪問先住所

西脇市郷土資料館

（西脇市西脇790-14 TEL0795-23-5992）

東播染工株式会社

（西脇市高田井町224 TEL0795-22-1000(代)）

兵庫県立工業技術センター繊維工業技術支援センター

（西脇市野村町字上の段1790-496 TEL0795-22-2041）

工場見学を終えた各グループは、の専門家の古谷氏やFP（フォームプレゼンテーション）のコーディネーターから、コンセプトや作品と使用素材の適合性などについて、グループごとに最終的なアドバイスを受け、それぞれが使用素材を発注しました。

この後、学生 8 グループは 11 月の JFW ジャパン・クリエーションの展示発表に向けて、播州織の生地を使用した作品制作に取り組みました。



西脇市郷土資料館



東播染工株式会社



兵庫県立工業技術センター繊維工業技術支援センター

■「JFW JAPAN CREATION 2019」(11月21日～22日)

会場：東京国際フォーラム ロビーギャラリー

～思い思いの成果に賞賛の声 JFW-JC で8グループが最終発表～

完成した作品は、JFW JAPAN CREATION 2019 ロビーギャラリーに、グループごとの8ブースを設け、展示発表を行いました。規定のスペースの中、学生たちはそれぞれ魅力ある演出でブースを設営しました。同展示会には、2日間で約17,000名が来場。会期中は自作品を熱心にプロモーションしました。学生にとっては、プロの業界人からの厳しくも暖かい意見を聞く貴重な機会となりました。

訪れたデザイナーやマーチャンダイザー、バイヤーなど業界関係者からは、各グループの作品とプレゼンテーションに高い評価が寄せられました。これからのファッション業界を担う彼らに、業界を盛り上げて頑張ってくださいとの激迎の声も上がりました。

前日の準備、展示装飾に取り組む学生(↓)



展示会開催(↓)





来場バイヤーへプレゼンテーション (↓)



会場入口 (↓)



□JFW JAPAN CREATION 2019」展示発表作品の審査

2日間の会期中には、デザイナーやバイヤーなど専門家による審査が行われました。①テキスタイルと作品の適合性、②作品表現の独創性、③作品のリピータ性、④作品の完成度などの項目による審査で、これによって最優秀賞と優秀賞を決定しました。

審査来場バイヤー51名(デザイナー、MD、小売バイヤー他)

■展示作品 ※<F-小間番号>順

<F1>

校名：エスモードジャパン東京校

グループ名：オリフク/orifuku

加藤 大地（*）

中村 茉梨花

田村 奈々

新井 優紀子

テーマ名：Origta



<F2>

学校名：神戸ファッション専門学校

グループ名：纏/MATOi

金川 慎（*）

豊田 純太

テーマ名：寂、線、空間



<F3>

学校名：上田安子服飾専門学校

グループ名：

チン・トレンバー/chintremble

宮川 紀子（*）

東田 和奏

植松 祥乃

早川 優奈

テーマ名：Neo lvy



<F4>

学校名：文化服装学院

グループ名：アスク／ASK

中上 大介（*）
オウ・ショウジョウ
須藤 真愛
岡田 実果子

テーマ名：生成階段 -General Phase-



<F5>

学校名：東京モード学園

グループ名：エターナル ライフ／Eternal Life

多胡 航平（*）
唯野 礼菜
金 大清

テーマ名：～時間が現時代に与える美しさ～



<F6>

学校名：香蘭ファッションデザイン専門学校

グループ名：祭福／HAREFUKU

永島 莉奈（*）
津野 彩音
森山 ののか
松永 恵美

テーマ名：祭福／ハレフク



<F7>

学校名：中部ファッション専門学校／

グループ名：

チェックモンスター／check monster

山田 いづみ

織田 さつき

間野 萌華

百合嶋 愛

肥田 莉佳

山本 菜月



テーマ名：ニューエイティーズ

<F8>

学校名：ドレスメーカー学院

グループ名：おむすび／Omusubi

宮尾 梨花子（*）

拓植 ほのか

福田 笑巳

テーマ名：ブリティッシュスタイル×和



（*）＝ グループ責任者

□参加グループのコメント（50音順）

上田安子服飾専門学校 chin tremble / チン・トレンバー

かつて西脇で行われた「サブロクコットン」というワークショップに参加した経緯から、播州産地には親近感があります。温故知新を80年代の「ピンクハウス」に求め、カラフルな作風を取り入れることによって、メンズシャツ地のイメージが強い播州産地に新しい提案を込めた作品となりました。

エスモードジャパン東京校 orifuku / オリフク

「モード×クリーン×手作業」をコンセプトに、誰もが着られるジェンターレスな服を目指しました。それとともに“折り”の手法を用い、さまざまな折りのアーカイブを調べて、何度も紙で試しながら製作しました。素材については、最初メンズのシャツ地が多いと聞いて心配しましたが、コーティング加工を施すなど、最終的に新しい表情ができました。

神戸ファッション専門学校 MATOi / 纏

テーマの「温故知新」を受けて“日本をとりもどす”をコンセプトに、東洋の美しさを目指しました。京友禅をはじめ日本の伝統技法を調べ、伝統技術を洋服の上に乗せることによって、洋と和の調和をはかりました。また、未完成な服をサブテーマにし、表素材をはじめ副資材やデザインなどで、着こなしなどで表情が変わる余地を残しました。

香蘭ファッションデザイン専門学校 HAREFUKU / 祭服

祭に代表される“ハレの服”がコンセプトです。祭礼などに用いられる七宝や矢絣、亀甲、鱗柄など、縁起のいい柄をモチーフしました。フォルムは現代的な祭を表現し、年齢や性別を問わずに楽しめるよう、身幅などを工夫しました。播州産地は生地のクオリティーが高いため、あえて後加工はせず、さまざま柄を組み合わせで表現しました。

中部ファッション専門学校 check monster / チェックモンスター

「温故知新」をニューエイティーズに設定し、80年代に人気を博したチェッカーズをイメージに製作しました。基本のチェックをボリューム感のあるデザインに表現するため、細番手が多い播州産地の生地で、いかにしてボリュームをもたせるかに苦心しました。袖に中袖をつけるなど試行錯誤を重ね、柄とシルエットの点検を繰り返すことで完

成しました。

東京モード学園 Eternal Life / エターナル ライフ

「時間が現代に与える美しさ」がコンセプト。樹木の年輪をイメージにし、時代とともに美しくなるデザインを考えました。播州産地の特徴である先染めを生かし、アイロンによるくせどりで年輪のような丸みをつくる。平面的な生地をくせどりやクラッシュ織との組み合わせで新しさを表現、デザインは樹木のイメージに沿ったアウトドア調にしました。

ドレスメーカー学院 Omusubi / おむすび

コンセプトは温故知新に沿った「ブリティッシュ×和」。英国の代表柄グレンチェックに日本の伝統をモチーフにしたスモッキングを表現しました。ベルトなどアクセサリーに水引やのし袋を模した、青海波(せいがいは)や淡路結びなど伝統的な和を取り入れ、20～30年代のデザインをフォーマルにならずにカッコよく見えるフォルムに仕上げました。

文化服装学院 ASK / アスク

「ゼネレーション・フェイズ (生成段階)」。時代とともに積み重なっていくモノ、という考えを作品に表現。時代がつくった環境悪化や省資源という問題を意識しました。ジャケットを脱いだら背負えるリュック、スカートがパンツになるなど、これまで学んださまざまな社会背景や加工方法を、時代の積み重なりというコンセプトで作品化しました。

■審査発表

最優秀賞

文化服装学院
アスク/ASK



中上 大介 (*)
オウ・ショウジョウ
須藤 真愛
岡田 実果子

優 秀 賞

香蘭ファッションデザイン専門
祭福/HAREFUKU

永島 莉奈（*）
津野 彩音
森山 ののか
松永 恵美



播 州 織 産 地 賞

東京モード学園
エターナル ライフ/Eternal Life

多胡 航平（*）
唯野 礼菜
金 大清



JFW JAPAN CREATION 2019 12th FORM PRESENTATION

用紙No.	業種	コメント	分類
1	学校関係	ポートフォリオをもっと充実させてほしいです！！おつかれさまでした！	アドバイス
10	その他(マーケティングコンサル)	カタチは思策の現われ・・・これからのデザイナーは、思策の掘下げを大切に！そんな予感を感じられる・・・モノ、チームがあり、次に期待する。	アドバイス
15	マスコミ	皆さんよくがんばりました。着想は良いので、もう一歩押し進めて追及してみてください。	アドバイス
17	その他	素材感をデザインに落としこむ力が全体的に弱い。	アドバイス
25	その他(お針子)	もう少しコンセプトをつめるといいと思います。	アドバイス
33	その他(ブランドアパレル)	それぞれ違って個性がでていていいけど、もっと遊んでもいいかなあ？	アドバイス
43	その他	伝統ある素材を生かすアイデアを楽しくさせる作品があり、皆さんの努力が感じられる作品が多く有り良かったと思います。伝統的ものにすこしシンプルさがあっても良いと思います。	アドバイス
46	バイヤー(アパレル)	アイデアが多く、作品の重量感が大きいので、少し引き算をするとすごくよくなるかと思います。皆さんプレゼン上手です。	アドバイス
48	バイヤー(アパレル)	衣装と服(実際に日常着るもの)の間にある違いを見つけ、「着たい」と思うものを作ることをこの先、心がけていけたらおもしろいと思いました。	アドバイス
51	その他	単体でいいものは多かったです、3体全体を通すと上記の様な点数にしました。3体全体でも単品でもいいとなるとよりよいなと思いました。	アドバイス
6	官庁・団体	生地に独自の考えの手法から加工を加える考え方が、服に反映されていておもしろい。話を聞くと播州にも、その加工手法をつかえるものがある。新しい生地のアイディアが生まれる可能性有り。おもしろかった。	好評
8	繊維製造・加工業	大変意欲的で今後が楽しみなメンバー	好評
13	繊維製造・加工業	みなよく考えています	好評
19	マスコミ	グループ<F-6>は、伝統柄のルーツを良く勉強して今日的なリアルクローズにしているのが素晴らしかった。	好評
20	その他(産業労働組合)	学生達の発想力、想像力のすごさに驚きました。	好評

21	マスコミ、学校関係	皆様、よく学習しているようす！未来を感じます。有難うございました。	好評
22	学校関係	テキスタイル加工にきちんとした手仕事をされている事に関心しました。	好評
24	バイヤー(アパレル)	作品のプレゼンテーションに感動しました。	好評
26	その他	素材から手がけていることが素晴らしいと思いました。	好評
27	マスコミ	どのグループもとても良かったです。特に<F-4>は、2019~20AWの世界のトレンドとサステナブルをとりあげていたところが良かったです。	好評
29	学校関係	どれもパッションを感じるすばらしい作品でした。	好評
36	バイヤー(アパレル)	スモッキングやパッチワークを、生地を生かしつつデザインされている事がとても良かったです。がんばりましたね。	好評
37	官庁・団体	洗練された生地使い、さりげない生染の表現を生かした使い方を重視しました。	好評
38	繊維製造・加工業	プレゼンテーション力が高い。縫製のレベルも高く良かった。	好評
39	バイヤー(小売)	全体としてプレゼンテーションが上手でわかり易かった。今までベストでした。	好評
40	その他(Photographer)	とても良い物を見れました。	好評
42	繊維製造・加工業	どの作品も工夫されたもので、甲乙つけがたい力作である。	好評
47	その他	年々レベルを上げていて頼もしく感じます。	好評
50	?	新しさを追求しつつ、古いものをリスペクトしている姿勢がよかった。細かいディテールまでこだわりが見えた。	好評
4	官庁・団体	ご苦勞様でした。これからもがんばって下さい。	激励
7	繊維製造・加工業	凝った工夫が多く見られ、その手間をおしまない姿勢を今後も継続して下さい。	激励
14	バイヤー(アパレル)	作品に時間をかけてつくるのはいましかできないので、とても貴重なたいけんだと思うのでがんばってください。	激励
28	繊維製造・加工業	3グループえらぶのがとても難しかったです、"熱意"をベースに選びました。これからもがんばってください！	激励
30	バイヤー(アパレル、企画会社)	すべて手が入っていてすばらしい作品で選ぶのに困りました。引き続きがんばって下さい。	激励
31	バイヤー(アパレル)	はからずも各学校のカラーがそれぞれの作品にあらわれているようで興味深かった。将来をになう世代のみなさんががんばって下さい。	激励

32	バイヤー(アパレル)	独創性もつとがんばろう。学生の今しかつくりえない物を。	激励
35	バイヤー(アパレル)	プレゼン力が決めてでした！がんばって下さい！！	激励
41	マスコミ	生地をまずは自分たちのものにするために産地の方々とのコミュニケーションをとり、生地を研究することを今からできる機会は貴重だったと思います。時間に追われるにつれて、そのようなことを忘れがちになってしまいますが、こういう経験を忘れずこれからもがんばって下さい。	激励
45	？	ていねいにプレゼンしてくれたのがとても印象的でした！これからも独自の感性をみがいていって下さい。	激励
52	バイヤー	皆がんばっているので採点できません。	その他

■ 総評

第12回となる、“FORM PRESENTATION”は、西脇産地の「播州織」をテーマに、公益財団法人北播磨地場産業開発機構とのコラボレーションを行いました。兵庫県立工業技術センター 繊維工業技術支援センターの技術を駆使した数々の試作素材を取り上げ、ガーメント製作に取り組みました。ファッションテーマは「温故知新」。3つの時代軸（「過去への敬意」「今の決断」「未来へのエール」）の中からデザインコンセプトを立案し、素材の特性を最大限に活かした新しいスタイルを追求しました。完成した作品はそれぞれの個性とアイデア溢れる仕上がりでした。

今回も多数の学校が参加し、ポートフォリオもレベルの高い大変すばらしい応募が多数ありました。具現化した作品も高い評価を受け、展示発表の会場では、審査員から多数の激励コメントやアドバイスが寄せられました。アイデアの独創性や表現は、学生らしい自由な発想との良い評価を得ました。展示発表での積極的なプレゼンテーションも印象的でした。審査、講評コメントをいただいた方々は、この事業に参加した学生たちの今後の活躍に大きな期待を寄せています。

■ 兼巻 豪（チーフコーディネーターの声）

本プログラム（FORM PRESENTATION）は「素材への知識を深める」ことを命題に、デザイン～素材セレクト～素材発注～仮縫い（時にデザイン変更）～縫製～加工という製造工程の上に期限（締切）までに完成させるという生産管理にもなり、最後には商談を行うという実学を学ぶことに意味があります。デザインだけが良くても素材だけが良くてもクリエイションとしての完成度は劣ります。素材の特性を加味した上でデザインにのせて製品を制作してこそ、人が着用して完成される洋服というクリエイションが完成します。この観点ではプロでもなかなか産地に足を運ぶことも少なくなる現状の中で、講演にて机上で、産地にて現場で「素材への知識を深める」ということは、社会への疑似体験を経験する貴重な機会であったと思います。様々な場面で質問をもらい解ったことは、「自分がしたいことと、出来ることのギャップ」だったのではないのでしょうか。学生にとっては未知の領域であるけれども、アパレル業界に就職すれば避けては通ることのできない工程を皆、必死にこなしていたように思います。

今回、挙げたファッションテーマ「温故知新」は、まさに歴史。一般消費者のファッションへの関心が希薄になった昨今において使い捨てのファッションでは、サステイナブルな社会創造への未来はありません。温故（産地の過去の偉業を知り、その中で生まれた貴重な素材への見識を深め）知新（見え隠れする素材の歴史の中から今の感性を触発させ今までにないファッションを創造する）への思いは、未来へのメッセージとして設定しました。特に素材に数量限定があるが故のミックスファッションの制作は、嘗てないほどにフォルムのみを考えるのではなく、色や柄のバランス感覚が要求されるものであり難易度も高かったと想像します。この難関を乗り越えた今回の8グループは、達成感以外にも超えたものにしか見えない景色を見たのではないのでしょうか。私はそう期待してします。

■ 「報告会」 成果報告と優秀者表彰

JFW-JC2019 で展示発表された“FORM PRESENTATION”に参加した学生グループの報告会が、12月14日に、東京・渋谷の文化ファッションインキュベーションで開かれました。8グループの学生、教員、協力企業、協賛団体関係者などの52名が参加しました。

報告会では、コンセプトの立案から服地の選定、作品制作にいたるプロセスを報告。「JFW-JC参加は貴重な体験であった。」「グループで1つのテーマに取り組むことがとてもよい体験になった」「産地の歴史に触れ日本の技術のすばらしさに感動した」とのコメントが相次ぎました。



報告会の後、JFW-JCの会場に訪れた業界関係者による審査の発表が行われ、最優秀賞の文化服装学院 アスク／ASK(中上大介さん代表)、優秀賞の香蘭ファッションデザイン専門学校 祭福／HAREFUKU(永島莉奈さん代表)には賞状とトロフィー、播州産地賞の東京モード学園 エターナル ライフ／Eternal Life(多胡航平さん代表)にはトロフィーが贈られました。また、それぞれの賞に副賞として播州産地で作られた記念品が贈られました。





報告会終了後に交流会を開催しました。

追記：

■完成した製品について

制作した作品は制作者の所有となりますが、展示会終了後 1 年間は、販売促進やプロモーションのため、協力企業からの貸出の希望などが出た場合はご協力をお願いしています。

また、学校内イベントなどで再度展示発表する場合は、レポートの報告などをお願いしています。

